

麦穂だより

第41号

発行 武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎
事務局 川崎市宮前区初山 1-12-26-3 門井孝一
ブログ URL (<http://teuchiudon.exblog.jp/>)

2012年 6月
Tel.044-975-7609

平成24年度定期総会 報告

とき；平成24年5月27日（日）11時～12時

ところ；川崎市立高津高等学校調理室

今年の定期総会では、本家である武蔵野手打ちうどん保存普及会から、青木正範副会長、野島實幹会長の来賓を迎える中、定刻11時になり中島副会長の開会の言葉をもって定期総会は始まりました。定数は、会員総数41名中、出席15名、委任状20名で、総会の成立が宣告されました。

はじめに北條会長から、以下の議案にある今年度の抱負が語られました。議長には阿部秀雄氏が選ばれ、その進行により第1号議案平成23年度事業報告が門井事務局

長から、また10周年記念事業については細田幹事から補足の報告がなされました。次いで第2号議案平成23年度決算報告は中野会計から提案され、また会計監査結果が橋本会計監査から報告され、それぞれ承認されました。

続いて第3号議案平成24年度事業計画案が門井事務局長から、次いで第4号議案平成23年度予算案は中野会計から提案されました。新しい企画として、麦とさつま芋の栽培を会員に

広く参加を募って行うこと、また秋の企画として「手打ちうどん塾」を開催することが盛り込まれています。いずれも承認されました。

総会議事を円滑に終え議長の退席とともに、会場は懇親会場に様変わりしました。

今回は、恒例になりつつあるオプション行事として「変わりうどん」を試作して参加者に食していただくことにしました。

これは、前日に役員10名がのびのびファームに集まって作ったものです。種類は、ソラマメ、玉ねぎ、青ノリ、ブロッコリ、ニン

ジン、抹茶の6種類です。いずれも季節の野菜やその場にあったものを利用しました。製作時に限って言えば玉ねぎが一番強烈で、周囲の人を含め泣きながらこねたものです。結果として全員の印象は、混ぜた素材がわかりにくいものであったようです。今後の反省として、素材の加工の仕方や、粉に入れる段階を精査する必要がある、ということになりました。

細田俊介（幹事）



多摩うどん講習・交流会にて

幹事 吉井孝大

平成23年度を締めくくる活動として、ようやく春の兆しが感じられる一日、「多摩区ボランティアセンター」が主催する交流会において、うどん打ちから茹でまでを指導し、その後の試食を兼ねた情報交換にも参加するなど、「武蔵野うどん」の普及に努めてきました。

会場の多摩市民館調理室には、女性11名、男性5名が集い、当初は、少し緊張気味に中野指導員の実演に見入っていましたが、軽妙な山田幹事長の解説もあって、次第に和やかな雰囲気の中で、進行していきました。いざ、自分たちのうつ段になると、そこは「初心者」、講師陣による手取り足取りの指導となりましたが、

その甲斐あってか全員がなかなかの水準でうどんを打ち上げました。それは、試食会で大いに食が進みあっという間に全員の胃袋に収まったことが、何より証左と言えます。

情報交換では、「うどんの長さや太さは不揃いでしたが、味は良かった」、「うどん打ちは難しかったが、今後精進して美味しいうどんを打ちたい」、「以前にそば打ちをした経験があるが、うどんも面白い。良い勉強をさせてもらった」等、一様に前向きな感想が述べられました。参加者は、残ったうどんを家族にもと持ち帰りましたが、2日後に食したが美味しかったとの後日談もありました。



活動報告（前号以降）

- 3月11日（日） 平成23年度第5回うどん講習会 高津高等学校
午前15名 午後3名 役員 11名
- 3月27日（火） 多摩区社会福祉協議会うどん打ち 多摩市民館調理室
参加者16名 指導者5名
- 4月18日（水） 役員会 於；市民活動センター 出席役員 11名
- 5月19日（土） さつま芋植え込み 於；黒川634野（むさしの）菜園
参加会員7人
- 5月26日（土） 総会準備 役員10人 於；のびのびファーム
- 5月27日（日） 平成24年度定期総会 於；高津高校調理室
出席者 会員15名 委任20名



**変わりうどん制作中。
総会前日、のびのびファームにて。**



**出席者全員の試食前に
だしつゆについて一講釈。**



**黒川634野菜園
600坪！こんなに広いんです。**



**汗を流した成果
整然と並ぶサツマイモの苗。**

自家栽培小麦で武蔵野うどんを!

中野敏雄

当うどん会十周年を機に、自分達で栽培した小麦、農林 61 号でうどんを作ってみようと計画をスタートした。

幸いなことに、永年にわたって家庭菜園を営んでいる北條会長の知り合いで麻生区の農家のご好意により栗木の地に 600 坪もの農地を借用することができた。

麦蒔きの時期は 11 月であるが、それまで耕作地をあけて草を生やしておくわけにはいかないの、栽培時期にあった作物を

検討してサツマイモを植えることとなった。会員の有志をつのり 5 月 19 日(日)に栗平駅に集合して現地に入った。地元の農家協力者数名と会員有志 10 名余りで作業開始。農地は既に耕されてあったので作付け用の畝作りからスタート。一畝 20m 余り、一人一畝が基本であるが合計 25 畝程作られた。サツマイモの苗を一畝 64 本植え付ける予定で作業をした結果 1600 本程作付けされた。収穫までに草取りや蔓返しなど作業をしながら 10 月の収穫

を楽しみに、しかし、1600 株をどう処分するかは未定である。今からでも、芋掘り、麦作り作業に参加する人をお待ちしています。

さて、本番の麦作りであるが、11 月 15 日

前後に麦蒔きを行う予定である。

その前に、サツマイモ耕作の跡地を耕して麦蒔きの畝作りをする必要がある。

麦蒔きの後は冬場を迎えるのであまり草むしりの必要はないがあまり乾燥するようだと

一回ぐらい水まきをするようになるかも。年が明けて霜柱が立つ頃に麦踏みを行うことが大事な仕事になる。

いずれにしても何度か現地作業を繰り返して来年の 6 月上旬には農林 61 号ができあがる事を楽しみに有志の皆さんへのご期待。それまでの間、現地作業毎に栗平の温泉などに立ち寄り疲労を癒して楽しい農作業としていきたいと思ひます。これからの参加も歓迎いたします、希望者は事務局までご連絡ください。



**畝作りからスタート
池田名誉会長も頑張ってます。**

ゴンドンゴンドンゴンドンゴンドンゴンドンゴンドン **あとがき** ゴンドンゴンドンゴンドンゴンドンゴンドンゴンドン

今号は、わが会の主催事業の報告一色になりました。定期総会を踏まえて、今年度の運営をやり遂げようという意識の表れといえます。

この紙面も、しかしたまには息抜きとでも言いますか、より文化面に重きを置いた紙面づくりも必要かとは思ひます。継続的な企画がありましたら、広報部までお知らせいただきたいと思います。